

令和7年度

高浦中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○授業目標の明確化と問題解決過程の重視
○GIGAスクール構想の積極的活用によるICTを利用した授業展開
○「家庭学習の手引き」・「自主学習ノート」・「タブレットドリル」を活用した家庭学習の充実

校長

小林 積

学力向上推進員

武知 直子

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

授業公開や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な内容が定着している生徒が多い。落ち着いて授業に臨み、与えられた課題に対しては意欲的に取り組むことができる。 ●定着が十分でない生徒は、読解力が弱く、記述問題も弱い。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につける。 ・習得した知識を、既習の知識と関連づけ、他の学習の場面で活用することができる。	・T.T指導を展開し、定着が不十分な生徒の個別指導を充実させる。 ・基本的な内容が復習できるプリント・ワーク等を課題とし、小テストを随時行う。 ・活動ごとや単元ごとに、ノート等の内容を確認する。 ・“MetaMoji”でプリントを配布したりタブレットドリルを活用したりして、反復学習を行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○表現活動を楽しみ、自分なりに工夫する生徒が多い。 ●単純な問いに対しては積極的に発言できるが、根拠を明らかにして筋道立てて説明することが苦手である。	・課題解決に至る過程を表現することができる。 ・さまざまな事象を関連づけたり、学習した内容を組み合わせて考えを深めたりすることができる。	・授業の目標を明確にするとともに、授業の流れが分かる板書・ワークシートを工夫する。 ・ペア学習、班活動を取り入れた活動をさせる。 ・アウトプットの場面を多く設定するとともに、タブレットを効果的に活用し、一人一人が意見や考えを表現する機会を作る。 ・様々な体験活動を通して表現力を高める。 ・文章から重要な部分を見つけ出し、その根拠を書かせることで情報を正確に捉える力を高める。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○課題等の提出率は高い。また、定期テスト前の学習にも、多くの生徒が目標を掲げ、意欲的に取り組んでいる。 ●自ら課題を見つけて学習に取り組むことが苦手な生徒がいる。	・「家庭学習の手引き」を活用し、授業で学んだことを自分のものとするために必要な家庭学習ができる。 ・ある事象に対して疑問を抱き、その疑問に対して、自ら調べることができる。	・学期ごとに家庭学習充実月間を設け、「自主学習コンテスト」を行い、家庭学習の質の充実を図る。 ・休日にタブレットを持ち帰り、“タブレットドリル”を用いて自らの理解度に応じた問題を選択して取り組ませる。			